

中部では多様な製造業、すなわち「ものづくり」産業が発達し、日本有数の経済圏（名古屋経済圏とも呼ばれます）を形成。その代表が自動車、自動車部品、工作機械、電気製品などの産業です。今や日本経済をけん引する一大拠点となり、この点は愛知県の工業製造品出荷額が昭和52年（1977年）以来、全国第1位の記録を更新し続けている点にも象徴的に表れています。

一般的に経済成長は技術革新に大きく依存していると言われていますが、「ものづくり中部」を支える優れた技術の一つとして最初に紹介したいのが、キャリアオ技研株式会社の3次元CAD技術。同社は代表取締役を務める 富田茂氏が2001年1月に創業したベンチャー企業で、翌2002年5月には岐阜県各務原市にあるテクノプラザのインキュベーションルームに入居。当初3人の従業員が今では40人に急拡大し、ベンチャー企業でありながらテレビCMを流していることでも有名になりました。

そもそも「3次元CAD技術」とはコンピュータを使って立体的に設計を行う技術で、ものづくりには不可欠。同社は、この技術をもとに中部地域を中心に自動車、航空機、産業機械の分野で研究開発・設計、解析、造形、レーザー加工工業を行っているだけでなく、3次元CAD



HIROFUMI TANGE

「キャリアオ技研」のデジタル伝承事業

丹下博文氏

1950年愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院修士課程修了。主に「倒産・企業再生」を研究。米コンベンシア大学大学院シネアススクール修了(MBA)。同大学院客員研究員。UCCLA米カリフォルニア大学経営大学院および社会公共政策大学院客員研究員。主に「大変革の潮流（新機軸）」「知」の文化（国立印刷局）、「環境基礎読本（3）」、「企業経営の社会性研究」（中央経済社）など多数。現在、愛知学院大学大学院経営学研究所教授、博士（経営学）。

技術者の養成・派遣・同席設計などにも幅広く対応しています。

ただし、これからは3次元デジタルエンジニアリング事業に活路を見出そうとしています。同社代表取締役の富田氏は、近未来の技術立国としての日本は3次元デジタルエンジニアリングによる知的生産によって発展すると主張。実際、3次元構造体を造形する世界唯一の金属噴射式造形技術（特許取得済み）を開発しながら、技術ノウハウのデジタル伝承事業にも注力しています。

とりわけ団塊の世代が一齐に定年を迎える2007年問題を抱えた日本の製造業の現場では、優れた技術や技能の伝承が喫緊の重要課題になっています。このような時期に熟練者の技術や技能を見える形にして（暗黙知から形式知にして）データベース化し、いつでも、どこでも、だれでも熟練の技術や技能を学習できるシステムの構築（ユビキタス化）を目指すキャリアオ技研の新しい「技術情報デジタル化モデル」には大きな期待が寄せられています。

キャリアオ技研株式会社

〒453-0013
名古屋市中村区亀島
2丁目6番16号 大升ビル
TEL 052-454-0495・0497
URL <http://www.calio.co.jp>